

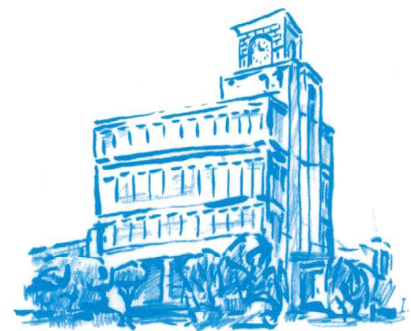
安全・安心環境づくり

—同僚性と協働性の構築—

伊丹市立総合教育センター

所長 永嶺 香織

「伊丹市いじめ防止等基本方針」には、「いじめはどの子どもにも、どの学校でも起こりうるものである。また、人権に関わる問題であり、絶対に許されるものではない」という認識の下に『しない、させない、許さない』といった姿勢を、すべての大人が共有しなければならない。」と示されています。



また、「いじめ問題の克服のために、すべての子どもにとって安全・安心で充実した学びを提供できる学校づくりを目指して行われなければならない」と示されています。

いじめ防止は、この「基本方針」に示されているように、未然防止、早期発見、早期対応を心がけるとともに、関係機関等と連携し組織的な対応が不可欠であることは言うまでもありません。

そのような中、8月に当センターで実施した「若手教員のためのスキルアップ講座」において、若手教員から「担任として相談したいことや報告をしなければならないことが日々起こるが、先生方が忙しそうでなかなか話しかけづらい」という話を聞きました。学校現場では、このように多様化する問題への取り組みやコロナ感染症対策等もあり、時間のやりくりで相当苦労されています。しかし、子どもが安全で安心して学ぶことのできる環境を整えることは、学校としての使命であり、とても大切なことです。

そこで、具体的に何をすればよいのか。1つは、子どもたちを中心に据えて、コミュニケーションのできる風通しのよい職場環境をつくること。即ち、「同僚性」を構築することです。2つめは、様々な課題を担任一人で抱え込むのではなく、個々の教師のスキルを活かして解決につなげる「協働性」を構築することです。

同僚性と協働性の構築こそが、いじめのない安全で安心な学校づくりのカギとなります。

安全・安心で充実した環境づくり

いじめ 防止に向けて！ いじめ 未然防止のための取り組み例

1. いじめの定義

当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。

2. 学校園における取り組み

A. いじめの早期発見に向けた取り組み

①児童生徒理解

- ・日頃から、児童等の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取る。
- ・きめ細かい観察や面接に加え、学年・教科担・部活動顧問など、広い視野から児童生徒理解に努める。

②信頼関係の構築

- ・教育活動に誠実に取り組み、自己研鑽に努める。

③相談機能の充実

- ・保健室や相談室の利用、電話相談窓口について広く周知する。

④家庭や地域との連携

- ・取組や成果を家庭や地域に伝え、学校外での児童等の行動等について、気になることがあればすぐに学校に連絡が入るよう、家庭や地域と顔の見える関係をつくる。

⑤校外相談機関との連携

- ・学校外の相談機関の機能や利用の仕方を、児童等や保護者及び地域に周知する。

B. 研修の充実

- ・互いに学級経営や授業、生徒指導等について尋ねたり相談したり、気軽に話ができる職場の雰囲気をつくる。
- ・いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する方針等の計画の共通理解を図る。
- ・SCやSSW、学識経験者、特別支援教育関係者、医師、弁護士等の専門家による研修会を行い、資質向上を図る。

伊丹市いじめ防止等のための基本的な方針より一部抜粋

児童生徒理解

文部科学省 国立教育政策研究所
「生徒指導リーフ 増刊号 いじめのない学校づくり 『学校いじめ防止基本方針』 策定Q&A」より

『“第2の保健室” 学校図書館の活用』

『空き教室を利用したふれ合いの場づくり』

自由な環境をつくり、その中で子どもの状況をつかみ取る！

信頼関係の構築

文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「いじめ問題に関する取組事例集」より

『授業改善を図ってわかる授業をつくる』

『チームを組んで校舎内外の巡視』

一人ひとりを大切に思う姿勢を子どもに見せる！

研修

『いじめ対策に係る事例集の活用』

文部科学省 平成30年9月 初等中等教育局児童生徒課 「いじめ対策に係る事例集」より

『NITS独立行政法人教職員支援機構
オンライン講座の活用』

など学校の実態に応じて様々なコンテンツを活用する！



夏 季 研 修 報 告

夏季休業中に総合教育センターで実施した研修・講座について受講者の感想等を紹介します。

「今だから工夫する、今こそ目指すこれからの社会を見据えた国語科の授業づくり」

実施日 : 8月3日(月)～8月31日(月)
研修形態: Zoom・動画配信による研修
【講師】
京都女子大学 教授 水戸部 修治 氏

受講者からの声

- ・深い学びの実現のためには、「つなぐ・つなげる・つながる」がポイントになるということがわかった。
- ・ツールを活用することで、子ども達の思考を整理しやすくなるとわかった。
- ・子ども達の思考をつなげるために、教師が適切に介入してつないでいくことが大切だとわかった。

「コロナ後の学校での対応～すぐに使える学級経営・授業づくりの技～」

実施日 : 8月3日(月)～8月31日(月)
研修形態: Zoom・動画配信による研修
【講師】
神戸親和女子大学
教授 金山 健一 氏

受講者からの声

- ・人と人とのコミュニケーションの3要素「言葉7%・顔の表情55%・声の調子38%」と言われていたのが印象に残った。普段は意識していなかったが、考えてみれば、生徒の表情から多くのことを読み取っていたことに改めて気づかされた。
- ・SEL,協同学習など学級経営や授業の中で実際にやってみようと思うものが多くあった。

「道徳における評価の在り方から授業づくりへ ～『対話的な学び』をいかにつくるか～」

実施日 : 8月3日(月)～8月31日(月)
研修形態: 動画配信による研修
【講師】
兵庫教育大学 教授 谷田 増幸 氏

受講者からの声

- ・評価の仕方など、京都の例を通して少しずつ見えてきたように思える。生徒一人一人に対しての視点をどこに置いても具体的に理解できた。
- ・道徳の授業の中では、登場人物の心情を考えさせることだけでなく、自分事として捉えさせていく必要があると改めて感じた。

「発達特性の理解と関わりについて」

実施日 : 8月3日(月)～8月31日(月)
研修形態: 動画配信による研修
【講師】
兵庫県立尼崎総合医療センター
小児科医長 石原 剛広 氏

受講者からの声

- ・医師、医療の立場からの話がとても興味深く、多くの示唆を得た。2次障害について幼児期から念頭において支援することの大切さを感じた。
- ・「発達特性5箇条」や「かかわりの3原則」などは初めて聞いた。普段から、このことを意識して接していけば子どもも自分自身も楽になると感じた。

※夏季研修講座の動画の提供につきましては、総合教育センター(担当:時村)までご相談ください。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番

TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00～21:00
水・土 : 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

＜教育相談＞

電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)

お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)

月・火・木・金 : 9:00～21:00
水・土 : 9:00～17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

